

## 新潟青陵大学キャンパスにおけるバリアフリー環境について

—学内の実地調査から考える—

キーワード：障害のある学生、キャンパス整備、バリアフリー

○田中 清<sup>1)</sup>

新潟青陵大学<sup>1)</sup>

### I 目的

新潟青陵大学（以下本学）キャンパスにおけるバリアフリー環境の現状と問題点を検証した上で、改善点及び課題を明らかにし、今後のキャンパス整備をする上での検討材料を提供することを目的とする。

### II 方法

バリアフリー実地調査

- (1) 調査対象：本学キャンパス
- (2) 調査日時：平成 24 年 7 月 3 日・17 日・24 日
- (3) 調査者：平成 24 年度田中ゼミ学生（小野寺、佐藤（貴）、佐藤（宏）、品田、長東、長谷川水品、若林 以上 8 名掲載了承済み）
- (4) 調査方法：3 人 1 組で調査実施、手動車椅子に乗車し計測・記録及び写真撮影を行った。  
各号館の出入口、教室、廊下、連絡通路、身障者用トイレ、共用施設などの広さ、段差、を計測し、使い勝手などを車椅子利用者の視点から検証を行った

### III 結果

- (1) 1・2・3号館（以下「旧館」とする）  
旧校舎のため段差が多い。段差をスロープなどで対応しているが、車椅子を操作する上で使用しづらい箇所（3号館入口など）がある。エレベーター等がないため 2 階以上は上がれない。
- (2) 4・5・6号館（以下「新館」とする）  
新校舎のため廊下のスペースの確保、段差の解消、引き戸仕様など利用しやすい環境にある。4号館、6号館の入口は自動ドアで十分な広さもあるため利用しやすい。
- (3) 各号館の連絡通路  
地勢的な高低差のため、階段があったり急なスロープが設置されていて、実質移動できない箇所（1号館～2号館、4号館～5号館）がある。
- (4) 各教室  
旧館では、段差が多く入口付近に教壇や机があり実質入れない箇所もある。

新館では、開き戸入口の中に一人で入るには困難な入口がある。また教室内に段差があったり、机の間隔が狭く移動しづらい教室が多い。

#### (5) 障害者用トイレ（1・4・6号館に設置）

学内に 3 か所あるが、1号館のトイレは狭く実質使用できない。4号館のトイレも使用しづらい。トイレのない号館からの移動距離が大きい。

#### (6) エレベーター（新館に設置）

いずれも入口が 80 cm で少し入りづらい。また内部の鏡の位置が高くて足元が見えない。

#### (7) その他の共用施設

- ・図書館内のスペースが狭いため移動しづらい。2階の閲覧室に移動できない。
- ・学生食堂の入口ドアは重すぎて一人では入れない。カウンターや席が高く使用しづらい。
- ・各事務室の入口は問題ないが、カウンターが高く使用しづらい。

### IV 考察

旧館は昭和 40 年代の建築であり、当時バリアフリーに関する法令による建築基準も設定されていないこともあり、バリアフリー環境を想定し建築されていない。また新館においては、それらの基準は満たしていると思われるものの、車椅子利用者等の視点から十分検討されているとは考えにくい。さらに、エレベーターの未設置や連絡通路の不整備のため、キャンパス内全体をスムーズに移動できない状況にある。

### V 結論

本学キャンパスは福祉系の大学でありながら、車椅子利用者等の障害のある学生及び教職員、市民の立場からすると利用しにくく、利用者の視点に立った配慮が足りないと考えられる。

#### 【参考文献】

佐野眞理子・吉原正治. 高等教育のユニバーサルデザイン化：障害のある学生の自立と共存を目指して. 大学教育出版. 2004